①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・6年「分数×分数，分数÷分数」で，分数で表された割合を学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・前時に，全体を1としたときの部分の割合を学習している。

教材研究ノート№6-C-6

≪学習問題≫

おふろにいっぱいのお湯を入れるのに

　Ａのせんを開くと10分

　Ｂのせんを開くと15分

かかります。

同時にせんを開いてお湯を入れると

何分でいっぱいになるでしょうか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

**![MCHH02396_0000[1]]()**

②見通し:おふろの容積がわからないので計算できない。

→全体を1と考えて，割合を使って計算すればよい。

②学習課題:全体を1として，Ａ，Ｂ両方のせんを開いたときの1分間にでるお湯の割合を考え，線分図をもとに求めよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:線分図をもとに1分間に出る量をもとに考える。

　　　　　　　　　だから1分間に1／10＋1／15入る

1

1/15

1/10

1分

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの考え方にも共通していることはなんだろう？」

→「全体を1と考えて，割合同士をたして考えている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「おふろの容積を，60ｍ３，120ｍ３，180ｍ３としても，答えが同じになるのはどうしてだろう？」

→「全体の容積を増やすと，それにともなって部分の割合にあたる量も増えるので，結果は同じになる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・おふろの容積がわからなくても全体を1として割合で考えられる｡

・容積が変わっても，割合が決まっているので，割合で考えれば答えは同じになる。

⑥定着･活用問題

おふろにお湯を入れるのに，2つのせんを同時に開いてお湯を入れると10分でいっぱいになりました。

片方ずつせんを開いてお湯を入れる

とき，かかる時間にはどんな場合が考

えられますか。

１

１

10

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・おふろの容積がわからないで戸惑っている場合には，前時の学習を振り返らせ，全体を1と考えて解決したことを想起させる。

・1/10，1/15や，それらの和の1/6の意味を問い直し，全体の量を１とみたときの出るお湯の量の割合であることを確認したい。

・全体に対する2量の和の割合は，割合同士をたすことによっても求められることをおさえたい。

【板書計画】